

4 まちづくりの目標

(1) イメージ

多くの人が「賑わい」の中、「水と緑の豊かさ」と「人との触れ合い、やさしさ」を感じられるまちを目指します。そのためには、「アクセス性の強化」により、郊外部からも人が集まり、「魅力ある空間と交流の場づくり」により人々が時にワクワクと時に穏やかにたたずめるようなまちづくりを進めます。

(2) 目標

ア 区民が主役のまちづくり

- ・まちづくり構想は、将来像や目標等について、区民の皆さまと意見交換を重ねつくりあげたもので、まさに、これからが実践のスタートです。まちづくりを実現するにあたっては、区民、地域、民間、行政等、多様な主体が目標を共有し、相互理解のもと、連携協働の輪を広げます。

イ 郊外部エリアの生活拠点のまち

- ・現在は、駅から徒歩圏のエリアを中心とした拠点となっています。これからは、高齢化人口減少、商業施設の不足などの課題を抱える区郊外部のエリアなどの日常生活を支える生活拠点としての役割を果たします。
- ・その際、周辺駅(大船、戸塚、港南台)との競合もあり、商業集積に偏らず、文化活動など多様な機能集積を目指します。

ウ 水とみどり、そして人がたたずむまち

- ・現在の駅周辺のエリアは、広い広場や公園はありますが、人が穏やかにたたずむような空間になっていません。人の行動に着目した空間づくりが必要です。
そこで、広場と公園の一体性、UR団地や国有地、いたち川との連続性などに配慮し、賑わいとして四季折々の花いっぱい、人が安らげるベンチ、あわせてオープンカフェなどの開放型の施設などを取り入れるなど高質な空間づくりを目指します。
- ・現在ある高木(ケヤキ、イチョウなど)は、極力生かしつつ、さらに、いたち川の豊かな自然を感じられる、また、身近な足元の緑づくり(芝生化や花壇づくり)に配慮します。
特に、いたち川と駅前広場がオープン空間としてつながり、いたち川からの風を感じられるようにすることを目指します。

エ 福祉と文化・アートの香るまち

- ・高齢者や障害者、子育て保護者などが積極的に出歩きたくなるようなまちを目指します。

栄区には、高齢者・障害者や子育て家庭を温かく見守り、共に暮らしていく風土が根付いています。本郷台は、その象徴として、支援・交流機能の充実とともに、ボランティアなどが集うまちを目指します。

- ・栄区民は、文化・アート活動への関心が高く、自らも熱心に活動をしています。

あーすぷらざ、ぷらっと栄、公会堂などの施設を生かし、本郷台駅前全体をフィールドキャンパスとして、日常のかつ積極的に、文化やアート活動が繰り広げられるまちを目指します。

オ 賑わいのあるまち

- ・日頃からイベントやオープンカフェなどがあり、多くの人が集い、交流し、たたずむ、そして、ふれあうまちを目指します。

そのためには、ハード面の対応（駅前広場・公園の空間づくり）や施設導入（商業施設間の広がり、福祉・文化等の交流機能など）などとともに、日ごろから駅前空間が利活用されるソフトな「しかけ」を導入します。